

2016年 神学・経済 第5問

1枚目 / 2枚



5 次の問いに答えよ。

Ⅰ  $X_i, Y_i$  ( $i = 1, 2, 3$ ) は実数とする.  $X_1^2 + X_2^2 + X_3^2 \neq 0, Y_1^2 + Y_2^2 + Y_3^2 \neq 0$  のとき,

$$(X_1Y_1 + X_2Y_2 + X_3Y_3)^2 \leq (X_1^2 + X_2^2 + X_3^2)(Y_1^2 + Y_2^2 + Y_3^2) \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

を以下の指示に従って, 2通りの方法で証明せよ.

(1) すべての実数  $t$  に対して,

$$(tX_1 - Y_1)^2 + (tX_2 - Y_2)^2 + (tX_3 - Y_3)^2 \geq 0$$

が成り立つことを利用して  $\textcircled{1}$  を証明せよ. また等号が成り立つときの条件を示せ.

(2) 原点を  $O$  とする 2つのベクトル,

$$\vec{OA} = (X_1, X_2, X_3), \quad \vec{OB} = (Y_1, Y_2, Y_3)$$

を考える.  $\textcircled{1}$  を  $\vec{OA}$  と  $\vec{OB}$  によって表せ. その上で,  $\textcircled{1}$  を証明せよ. また等号が成り立つときの 2つのベクトルの位置関係を示せ.

Ⅱ 対応する 2つの変数  $x, y$  の値の組  $(x_i, y_i)$  ( $i = 1, 2, 3$ ) を考える. 変数  $x$  の平均を  $\bar{x}$  とし,  $x$  の偏差を  $X$  とする. すなわち,  $X_i = x_i - \bar{x}$  ( $i = 1, 2, 3$ ) であり, 変数  $y$  についても同様とする. また  $x, y$  の相関係数が定義できる場合を考え, これを  $r$  とする. このとき, 上記  $\textcircled{1}$  を用いて,

$$-1 \leq r \leq 1$$

となることを示せ.

*t* について降べきの順に並べ  
t の 2次方程式とみる.

$$\text{Ⅰ (1)} \quad (tX_1 - Y_1)^2 + (tX_2 - Y_2)^2 + (tX_3 - Y_3)^2 \geq 0 \iff \underbrace{(X_1^2 + X_2^2 + X_3^2)}_{\neq 0} t^2 - 2(X_1Y_1 + X_2Y_2 + X_3Y_3)t + Y_1^2 + Y_2^2 + Y_3^2 \geq 0$$

これがすべての実数  $t$  について成り立つから, 判別式を  $D$  とすると

$$D/4 = (X_1Y_1 + X_2Y_2 + X_3Y_3)^2 - (X_1^2 + X_2^2 + X_3^2)(Y_1^2 + Y_2^2 + Y_3^2) \leq 0$$

よって,  $(X_1Y_1 + X_2Y_2 + X_3Y_3)^2 \leq (X_1^2 + X_2^2 + X_3^2)(Y_1^2 + Y_2^2 + Y_3^2)$  が成り立つ  $\square$

等号成立は  $tX_1 - Y_1 = tX_2 - Y_2 = tX_3 - Y_3 = 0$  すなわち  $X_1 : X_2 : X_3 = Y_1 : Y_2 : Y_3$  のとき //

$$(2) \quad \textcircled{1} \iff \frac{(\vec{OA} \cdot \vec{OB})^2}{|\vec{OA}|^2 |\vec{OB}|^2} \leq 1 \quad \text{これを示す}$$

$$(\vec{OA} \cdot \vec{OB})^2 = |\vec{OA}|^2 |\vec{OB}|^2 \cos^2 \theta$$

$$0 \leq \cos^2 \theta \leq 1 \quad \text{より} \quad (\vec{OA} \cdot \vec{OB})^2 \leq |\vec{OA}|^2 |\vec{OB}|^2 \quad \square$$

等号が成り立つのは,  $\cos^2 \theta = 1$  すなわち  $\vec{OA}$  と  $\vec{OB}$  が平行のとき //

2016年 神学・経済 第5問

2枚目/2枚



5 次の問いに答えよ。

Ⅰ  $X_i, Y_i$  ( $i = 1, 2, 3$ ) は実数とする.  $X_1^2 + X_2^2 + X_3^2 \neq 0, Y_1^2 + Y_2^2 + Y_3^2 \neq 0$  のとき,

$$(X_1Y_1 + X_2Y_2 + X_3Y_3)^2 \leq (X_1^2 + X_2^2 + X_3^2)(Y_1^2 + Y_2^2 + Y_3^2) \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

を以下の指示に従って, 2通りの方法で証明せよ.

(1) すべての実数  $t$  に対して,

$$(tX_1 - Y_1)^2 + (tX_2 - Y_2)^2 + (tX_3 - Y_3)^2 \geq 0$$

が成り立つことを利用して  $\textcircled{1}$  を証明せよ. また等号が成り立つときの条件を示せ.

(2) 原点を  $O$  とする 2つのベクトル,

$$\vec{OA} = (X_1, X_2, X_3), \quad \vec{OB} = (Y_1, Y_2, Y_3)$$

を考える.  $\textcircled{1}$  を  $\vec{OA}$  と  $\vec{OB}$  によって表せ. その上で,  $\textcircled{1}$  を証明せよ. また等号が成り立つときの 2つのベクトルの位置関係を示せ.

Ⅱ 対応する 2つの変数  $x, y$  の値の組  $(x_i, y_i)$  ( $i = 1, 2, 3$ ) を考える. 変数  $x$  の平均を  $\bar{x}$  とし,  $x$  の偏差を  $X$  とする. すなわち,  $X_i = x_i - \bar{x}$  ( $i = 1, 2, 3$ ) であり, 変数  $y$  についても同様とする. また  $x, y$  の相関係数が定義できる場合を考え, これを  $r$  とする. このとき, 上記  $\textcircled{1}$  を用いて,

$$-1 \leq r \leq 1$$

となることを示せ.

Ⅲ  $x$  の分散,  $y$  の分散,  $x, y$  の共分散をそれぞれ  $S_x^2, S_y^2, S_{xy}$  と表すと

$$\textcircled{1} \iff 9 \cdot \left( \frac{X_1Y_1 + X_2Y_2 + X_3Y_3}{3} \right)^2 \leq 9 \cdot \frac{X_1^2 + X_2^2 + X_3^2}{3} \cdot \frac{Y_1^2 + Y_2^2 + Y_3^2}{3}$$

$$\iff (S_{xy})^2 \leq S_x^2 \cdot S_y^2$$

$$\iff -\sqrt{S_x^2} \sqrt{S_y^2} \leq S_{xy} \leq \sqrt{S_x^2} \sqrt{S_y^2}$$

$$\therefore r = \frac{S_{xy}}{\sqrt{S_x^2} \sqrt{S_y^2}} \quad (1)$$

$$-1 \leq r \leq 1 \quad \square$$